

新十津川町

0327 中川 修作

1. 概要と地理

1.1 地名の由来

新十津川という名称は、奈良県吉野郡にある十津川村に由来している。1889年に十津川村で豪雨による大水害が起き、死者168人、全壊・流出家屋426戸、耕地の埋没流失226haという甚大な被害をもたらした。そこで生活日本国内の未開墾地や外国のハワイなど移住案があがり、約600戸、2489人の被災民が北海道へ移り、新十津川村と名付けた(後に新十津川町に改称)。このこともあって新十津川町は十津川村の町章と同じものを使っている。

1.2 歴史と概要

表1 新十津川町の歴史

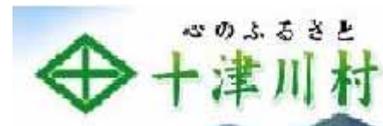
| | |
|-------|---|
| 1889年 | 奈良県吉野郡十津川村で豪雨により水害、村壊滅。 |
| 1890年 | 600戸2489人がトック原野(徳富川流域)に移住 新十津川開村 |
| 1902年 | 新十津川村、二級町村制施行。滝川村(今の滝川市)と結ぶ石狩川橋が道内初の鋼トラス道路橋として竣工。 |
| 1907年 | 新十津川村、一級町村制施行。 |
| 1931年 | 札沼北線、石狩沼田駅 - 中徳富駅(今の新十津川駅)間開通。 |
| 1935年 | 札沼線(今は学園都市線とも呼ばれる)全通。 |
| 1943年 | 札沼線部分(新十津川町内も含む)休止。 |
| 1953年 | 札沼線部分営業再開、中徳富駅が新十津川駅に改称。 |
| 1957年 | 新十津川村、町制施行。「新十津川町」と称する。 |
| 1972年 | 札沼線新十津川駅以北廃止 |
| 1990年 | 開基100年 |
| 2000年 | 総進不動坂遺跡における発掘品捏造事件発覚 |
| 2002年 | 滝新橋竣工 |

図1 新十津川町の町章



出典: 新十津川町役場 HP

図2 十津川村の村章



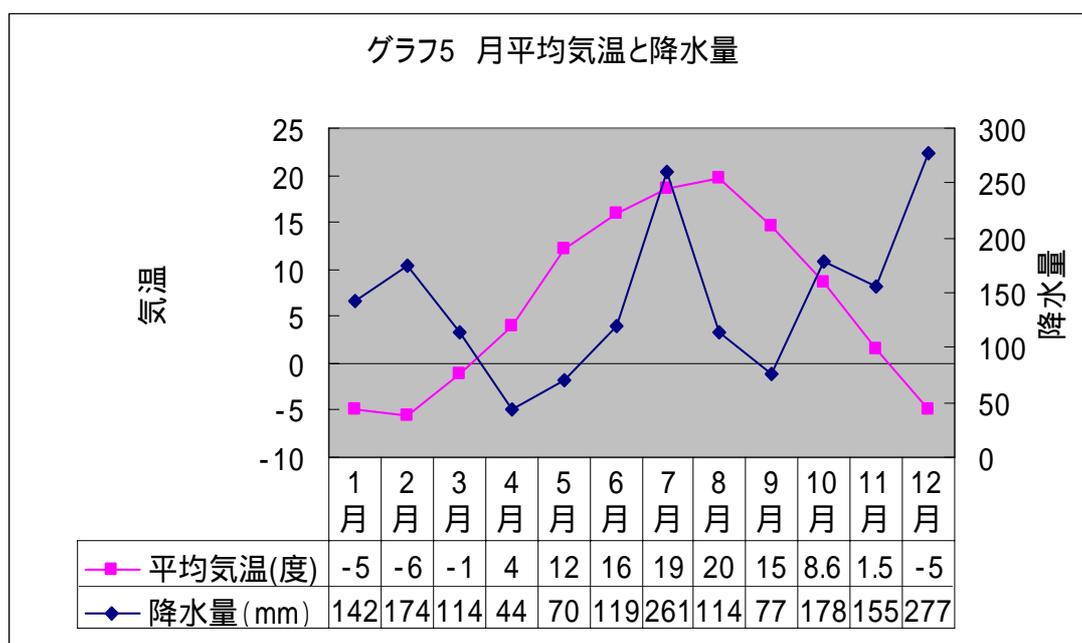
出典: 十津川村役場 HP

資料: ウィキペディア

今年で開基 120 年となる歴史の深まってきた町である。2000 年の総進不動板遺跡における捏造事件発覚とは、1990 年に遺跡で発掘された旧石器時代中期のものと思われる石器を巡った騒動である。ちなみにこの事件を起こした張本人は当時、石器発掘名人と呼ばれ「神の手」を持つ男と仲間の間で称されていた NPO 法人副理事長の藤村新一である。また、近年ではスポーツが盛んな都市でもある。十津川村の駅伝に新十津川町のチームが参加したり、各スポーツの OB 選手を呼んで共に競技を楽しんだり、スポーツに力を入れている。テニスコートやパークゴルフ場などを完備しているため、老若男女問わず、運動で汗を流すことのできる町である。また、新十津川町小中学生の剣道部が全道大会で平成に入り複数回優勝するなど、輝かしい成績を収めている。

1.3 気候

新十津川の気候は、非常に寒暖の差、四季の変化が激しいといえる。夏は 30 度を超えることも珍しくなく、1 年の最高月平均気温は 30.5 度にもなる。逆に、冬は氷点下 20 度を超えることもあり、最低月平均気温が-27.1 になる。さらに 1 日で積雪量 135cm を記録するなど、実に四季がはっきりしている町といえる。



資料：気象庁 HP

1.4 地理

面積は 495.62km² で、北緯 43 度・東経 141 度に位置しており、広ぼうが東西 35km・南北 30km となっている。隣接している自治体は空知総合振興局の滝川市、砂川市、樺戸群浦臼町、雨竜群雨竜町、空知群奈井江町、留萌振興局の増毛群増毛町、石狩振興局の石狩市、石狩郡当別町である。

表 2 新十津川町の自然

| | |
|----|--|
| 河川 | 石狩川、徳富川、尾白利加川、ワッカウエンベツ川、ルークシュベツ川、幌加徳富川、樺戸川 |
| 山岳 | 奥徳富岳、南暑寒岳、ピンネシリ、待根山、徳富岳、鷲峻岳、留久山、壮志岳、察来山、大滝山、知来岳、総富地岳 |
| 湖沼 | 袋地沼、留久貯水池、暑寒湖、和歌貯水池、南幌加貯水池 |

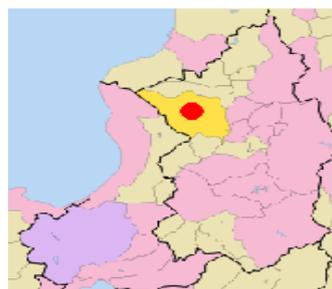
資料：ウィキペディア

図 3 新十津川町の位置



出典：ウィキペディア

図 4 新十津川町の位置



出典：ウィキペディア

1.5 町の木・花

新十津川町の町の木はイチイ科イチイ属のオンコである。オンコとはイチイ（アララギ）をアイヌ語で言ったものである。沖縄県を除き、日本全国で見ることのできる木である。イチイを市町村の木にしている所は多く、道内では北見市や当麻町などが指定している。ワシントン条約による保護対象になっている木でもある。新十津川町の町の花はツツジである。ツツジはツツジ属を総称した名前で、日本全国様々な種類を見ることができる。また、咲いた景色が美しいことから街路樹として用いられることもある。

図 5 町指定の木・オンコ



出典：ウィキペディア

図 6 町指定の花、ツツジ

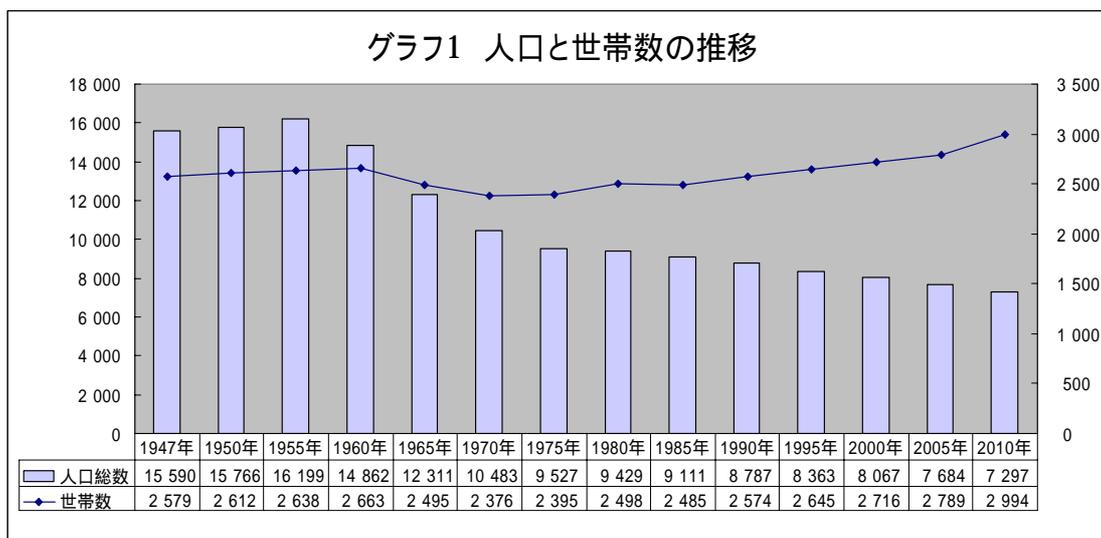


出典：ウィキペディア

2. 人口と産業

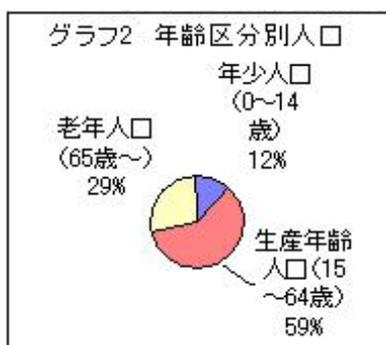
2.1 人口

住民基本台帳によると2010年3月の人口は7273人、世帯数は2995世帯である（2010年のみ北海道庁住民基本台帳を利用）。人口は1950年代の増加を最後に一貫した減少傾向にある。これは1957年の町制施行もあって人口が多くなっており、駅廃止などの交通の不便で人口が減少したと考えられる。世帯数は著しい変化はないが近年増加傾向である。

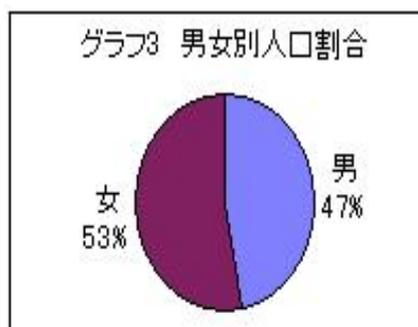


資料：北海道庁統計課・国勢調査（一部住民基本台帳）

年齢区分別人口については生産年齢人口が6割を占めるが、年少人口が約1割、高齢人口が3割に上るなど、少子高齢化が進んだ町といえる。男女別人口については、女性が過半数を占める形となっている。この比率は国勢調査を始めて以来ほぼ変わらず、常に女性が数百人多い人口比となっている。



資料：新十津川町役場 HP



資料：新十津川町役場 HP

2.2 産業

海に面していないため、漁業はまったく行われていないが、農業・林業により第一次産業が就業者中の 29%を記録しており、全人口中の 1000 人は第一次産業を営んでいる。その 1000 人のうちの 9 割以上が農業を営んでいることから、非常に農業の盛んな町といえる。農業は米を中心に生産し、町の水田率は 78%、水稲としての作付面積が 3530ha、収穫量が年間 20100t と、米の生産においては非常に高い数字を表しており、町の農業産出物の 75%を占めるほど、大きく展開している。また、新十津川町で生産される米は全道最高ランクと評され、「良質米を作る町」と農林水産省にも評されている。元々新十津川町は農家の数が多く、販売農家の割合も 88%であることから、非常に農業の盛んな町といえる。米以外にも、たまねぎを年間 2410t 生産しているほか、ねぎや蕎麦、小麦・飼料作物など、多くの農産物を生産し、この北海道に供給している。最近ではメロンの栽培も始めている。林業は林野面積が 38470ha、町の林野率は 77.6%となっている。さらに今年に入って新十津川町農産物ブランド化推進事業計画というものが進められている。これは「安心・安全でおいしい農産物」の生産をより目指し、今まで作っていない新しい農産物生産に取り組みながら、新十津川町の農産物の評価を高めることを目的としている。推進協議会からの助成により、個人または団体がブランド化した農産物の生産が可能になり、JA からノースランドメロンや個人による桃太郎というトマトの生産が実現した。

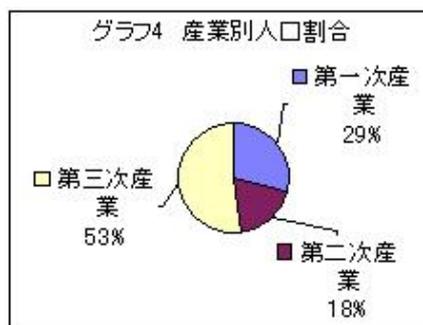
第二次産業は就業者中の 18%、全人口の 700 人ほどで、建設業に最も力が注がれているが、第二次産業で最も有名であるものが酒の製造業である。金滴酒造株式会社という酒造があり、良質な米を生産できるため発展したと考えられる。道内各地で生産されているきさら 397 や道外で生産された米などを原料として、数多くの酒を流通させていた。元は 1904 年に新十津川酒造株式会社という名で、酒銘は新十津川に流れている「徳富川」と「花の雫」から始まった。戦時中に 3 酒造会社を吸収合併し、現在の規模に至っている。

第三次産業は就業者中の 52%、全人口中の 2000 人近くにも上る。ヤマト運輸や佐川急便ら運輸業や教育サービス業、医療・福祉と複合サービス業、小売業などが充実している。福祉のうちのひとつに地域包括支援センターというものがあり、雨竜町と協力し要介護認定者に支援・介護を提供するなどの業務を行っている。

図 7 金滴酒造株式会社



出典：金滴酒造株式会社 HP



資料：新十津川町役場 HP

3. 特産品・文化財・観光

3.1 特産品

新十津川町の特産品は、陶器・笹鮎・シンギスカン・ホルモンに加え、前述にもあるように米と酒である。陶器は名人による作品で、笹鮎は地元で採れる徳富笹でサバを巻いた寿司で、さっぱりした味わいである。ホルモンは特製たれによる味付けと歯ごたえ、のどごしが、シンギスカンは20年以上の歳月を経て完成した秘伝のたれによる味付けが自慢である。酒の中で最も愛されているのが地酒『金滴』であり、創業から作られているという長い歴史を持ち、今でも愛好者がいるという。

図8 新十津川町の特産品（左から陶器・笹鮎・ホルモン・地酒）



出典：新十津川町 HP（すべて）

3.2 文化財

新十津川町の町指定文化財のひとつめが、新十津川獅子神楽である。これは1908年、日露戦争後の人心退廃の風潮を憂う富山県出身者たちが青年たちに健全な娯楽を授けるとともに、併せて村祭りにも寄与しようと獅子神楽の普及を計画し、獅子神楽会を設立した。以来、玉置神社（今の新十津川神社）の祭りなどで舞い、近隣市町村には例のない伝統と特色ある郷土芸能として名声をあげたので、町は1983年に無形民俗文化財に指定した。

ふたつめが絵馬・玉置神社奉祀之景である。これは1894年に岸尾森直氏が玉置神社の分霊を奉安したときの様子を絵馬として描いたもので、村民が踊っている様子や渡り船が出ているなど当時の様子が鮮明に表されており、歴史資料として価値が高いものであるため2002年に有形文化財に指定された。

図9 新十津川獅子神楽



出典：新十津川町役場 HP

図10 絵馬・玉置神社奉祀之景



出典：新十津川町役場 HP

3.3 観光

新十津川町の観光は冬が最も入込総数が大きい。その理由としてあげることができるのが、周りが山に囲まれており、図でもわかるように美しい光景を生み出すことができるためだ。ピンネシリとは男神のような強さの高い山を表しており、これは昔の大嵐による海の荒波から逃げた人がこの山のおかげで救われたと考えたために名づけられ、男山ともいう。ちなみに低い山は女神のような優しさをもつということからマツネシリ、女山と呼ぶ。この山々は季節や朝夕などによって様々な光景を楽しむことができる。

図 11 は開拓記念館で、これは開町 90 周年であった 1980 年に建てられた。館内には新十津川町と母村である十津川村の自然と歴史、十津川団体の移住と開拓など、新十津川のあゆみを展示している。

図 11 開拓記念館



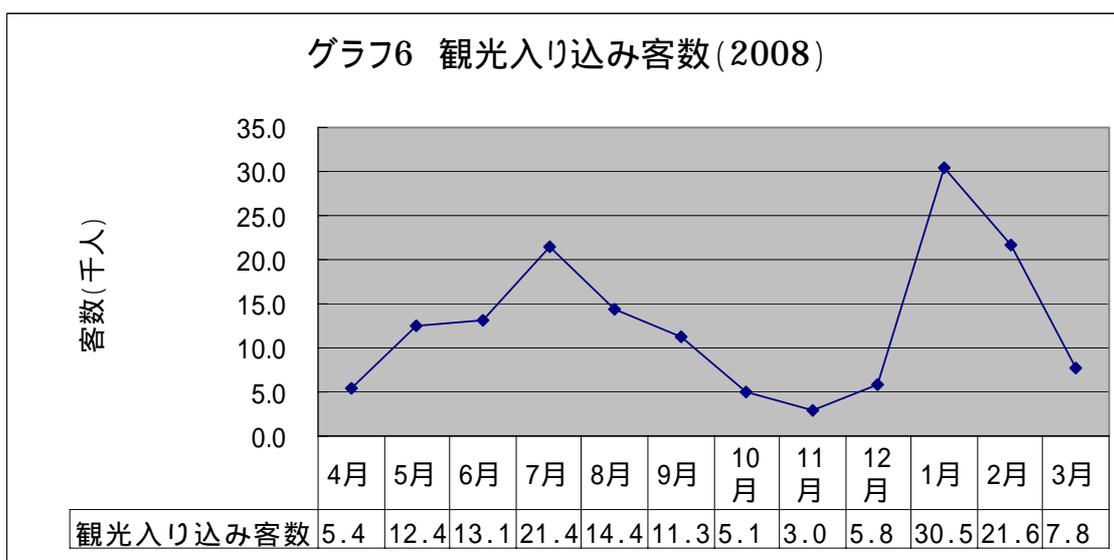
出典：新十津川町役場 HP

図 12 冬のピンネシリ



出典：新十津川町役場 HP

グラフ6 観光入り込み客数(2008)



資料：北海道庁 HP

グラフのように夏である7月と冬の1月に入り込み客数が多いのは、それぞれに町の大きなまつりが開かれるためといえる。7月にはふるさとまつりというものが開かれ、獅子神楽の披露や町民から寄せられるユニークな催しもの、野菜や果物を売る市場やフリーマーケットなど、町ぐるみで取り組むまつりである。2日間に及ぶまつりで、1日目がビールパーティーや花火大会、2日目を催し物やキャラクターショーなど、子どもから大人まで年齢を問わず楽しめるまつりとなっている。

冬の1月には雪まつりが開かれ、これでは旭川のように巨大な滑り台や壁絵、ステージなど雪で作られ、楽しめるようになっている。陸上自衛隊の一部による雪像制作隊が正月明けに除雪・雪集めの作業から始まり、1月の下旬に完成させるという急ピッチといえる作業であるが、見事に完成させて利用する子どもたちを楽しませている。雪像のほかにも恒例といわれる冬鍋大会というものがある。これは一般公募によるバラエティに富んだ鍋料理の出店が連なることで様々な鍋料理を楽しみながら、冬の厳しい寒さもしのぐことのできるイベントである。

4. 参考HP

- ・新十津川町役場 HP : <http://www.town.shintotsukawa.lg.jp/index.jsp>
- ・十津川村 HP :
http://www.vill.totsukawa.lg.jp/cgi-bin/odb-get.exe?wit_template=AM040000
- ・ウィキペディア :
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%96%B0%E5%8D%81%E6%B4%A5%E5%B7%9D%E7%94%BA>
- ・北海道庁（国勢調査・住民基本台帳）：
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tuk/900brr/index.htm>
- ・金滴酒造株式会社 : <http://www.kinteki.co.jp/>
- ・気象庁 HP : <http://www.jma.go.jp/jma/index.html>

図 13 ふるさとまつりの様子



出典：新十津川町役場 HP

図 14 ふるさとまつりのロゴ



出典：新十津川町役場 HP

図 15 雪まつりの様子



出典：新十津川町役場 HP